

高田 勗 前編集委員長を悼む

相澤好治（「産業保健21」編集委員長）



初代の舘正知先生から1997年に引き継ぎ、昨年まで18年間本誌の編集委員長を務められた高田勗北里大学名誉教授・独立行政法人労働者健康安全機構名誉医監は、今年2月に87歳を迎えられた後、3月21日に肺炎で逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。編集委員長として、産業保健分野を代表する編集委員の意見をまとめ、1年に4回刊行される本誌に眼を通され、本誌の内容を充実させ、産業保健従事者の知識向上に貢献された功績は極めて大きいと思います。編集委員会では、何時もにこやかに柔和に対応され、時には厳しい眼力を発揮されたことと思います。

いうまでもなく高田先生は、戦後の労働衛生行政の進展に貢献され、数えきれないほどの関連団体を指導してられました。平成6年に北里大学医学部教授を定年でご退任後、本誌を発行する労働福祉事業団（現独立行政法人労働者健康安全機構）の医監に就かれ、労働行政の各種施策に多大な協力をされました。また関連学会である日本職業・災害医学会の理事、編集委員を長年にわたり務められ、第35回学術大会を東京で主催されました。それらの経験から得られた見識を編集委員長として、如何なく発揮されたものと思います。

先生は、最近までお元気で活躍されていましたが、2年前の同門会帰宅後、転倒されてから、骨折や肺炎のため北里研究所病院に入院を繰り返しておられました。お見舞いに行くと、にこやかに対応して頂きましたが、最近は静かに眠っている時間が多かったように思います。生前の活発な姿を見ている我々にとっては、信じられないことでした。

高田先生は、昭和26年慶應義塾大学医学部衛生学・公衆衛生学教室に助手として任用され、早くから産業現場における作業または作業環境に起因する健康障害の予防および健康診断を始めとする健康管理の重要性を深く認識されました。昭和31年労働省（現厚生労働省）に奉職し、じん肺健康管理など主に労働衛生行政に携わるほか、水産庁、外務省、科学技術庁にも出向しました。昭和43年に北里大学衛生学部（現医療衛生学部）産業衛生学科で助教授、教授を歴任され、昭和47年に同大学医学部衛生学・公衆衛生学単位に初代教授として異動し、平成6年退任に際し、同大学から名誉教授の称号が付与されました。

先生は、教授在任中と定年後も、厚生労働省の審議会、委員会、日本医師会産業保健委員会委員長、各種団体の役職等に就任され、一貫して高い識見をもって労働衛生、予防医学、健康保持増進等の産業保健活動に尽力し、瑞宝中綬章を受章されました。まさに、巨星落つという状況ですが、編集委員一同、先生のご業績を偲びながらも、なお一層本誌の充実を図ってゆきたいと思います。合掌

◆84号のクエスチョン当選者 ※84号の解答：Q1 ③、Q2 ①、Q3 ②

当選者：太田良男さん／宮城県、佐野敦さん／京都府、関克博さん／埼玉
県、森本クニ子さん／京都府、Y・Tさん／岐阜県、その他1名

「産業保健クエスチョン」と書籍プレゼントは、84号をもって終了いたしました。

84号におきまして以下の通り誤りがございました。訂正させて頂くとともに関係者・読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

P7 亀田高志氏の所属名
(誤) 株式会社産医大ソリューションズ → (正) 株式会社産業医大ソリューションズ
P12 図1 折れ線グラフの線の指示誤り
(誤) 破線：死亡者数、実線：死傷者数 → (正) 実線：死亡者数、破線：死傷者数

編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長 相澤好治 北里大学名誉教授
石渡弘一 神奈川産業保健総合支援センター所長
小川康恭 前独立行政法人労働安全衛生総合研究所理事
加藤隆康 株式会社グッドライフデザイン技術顧問
亀澤典子 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事

河野啓子 学校法人暁学園四日市看護医療大学名誉学長
武田康久 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
浜口伝博 ファームアンドブレイン社代表／産業医
東 敏昭 学校法人産業医科大学学長
道永麻里 公益社団法人日本医師会常任理事